

主な内容

- ・ 連合滋賀結成大会
- ・ 会長就任あいさつ
- ・ 結成記念パーティ
- ・ 中村鋭一さんてこんな人



連合滋賀

全日本民間労働組合連合会滋賀県連合会

1989年3月14日

連合滋賀 創刊号

天津市におの浜4丁目5-1

電話 0775-23-0500

発行編集 東郷榮司

「連合滋賀」結成大会開く

「ゆとりある生活」と「社会に貢献する」運動めざして



副会長 吉川浩次



副会長 北村 謙

一三八組合五七、一七八人を結集 今秋の官民統一にむけて努力

全日本民間労働組合連合会滋賀県連合会「連合滋賀」の結成大会は、二月二十五日午後三時より、天津市の滋賀県労働会館におの浜荘において開催された。この結成大会には、各産業別組織ならびに各組織職場を代表する代表議員百七名と連合滋賀準備会幹事二十名他、多くの傍聴者が参加し、民間組合の労働戦線統一である「連合滋賀」の結成に誰もが期待に胸をふくらませ、次々に提案された議案に対して満場一致の賛成が行われ、熱気あふれる結成大会となった。

大会は「労働運動の新たな前進のために、力をあわせて頑張っていく」とする大会宣言を採択して、成功裡に幕を閉じた。

午後三時、定刻に開催された結成大会においては、吉川浩次（ゼンセン同盟）も力を尽くそう」と開会の挨拶を行いました。

準備会幹事の司会進行が行われ、議長に松村真一（全金同盟・小宮繁樹次全機金）の両氏を選出してすめられ、議長に松村真一（全金同盟）が就任し、準備会幹事を代表して北村謙（同報通協）が挨拶を行った。中川勲（ゼンセン同盟）が挨拶を述べ、準備会幹事から脱皮し、社会的影響力を持ち、有意義な地域社会に貢献する運動をめざした。

議案については、第一号



事務局長 寄本道男



副会長 小宮繁忠



副会長 松村真一

連合滋賀役員代表挨拶

「連合」がめざすものについては、少なくとも次の五つの可能性があると言われています。その一つは、連合「すなわち労働組合が大きい結果することによりまして、政策発言力が強化できること」です。労働組合が国の経済や社会政策に対して積極的な発言や提言を行う必要がありながら、今日までその



議長あるいは滋賀同業の吉川会長からも挨拶を頂きました。今日、「連合滋賀」の発足に際しまして、労働団体のそれぞれから心あたたまる激励を頂きました。これはこの一年間、準備会活動を通じて、労働団体のそれぞれから心あたたまる激励を頂きました。これはこの一年間、準備会活動を通じて、労働団体のそれぞれから心あたたまる激励を頂きました。これはこの一年間、準備会活動を通じて、労働団体のそれぞれから心あたたまる激励を頂きました。

「連合滋賀」がもたらす可能性

会長 東郷 栄司

本日、「連合滋賀」の発足に先立ちまして、長い間、滋賀の民間産別組合の連帯と協力をめざして努力を頂戴してきました。全労協が十九年の歴史を閉じ、解散大会を開かれました。また、先程は来賓として滋賀地評の山元

の影響力を発揮できなかったのは、いうまでもなく分裂の中にあつたからだと思えます。これからの時代は高齢化や国際化などをめざりまして、さまざまな条件整備が政策面からも必要でありまして、法制問題や社会保障等につきましても、あらゆる面で公正を実現させることが大事だと言えさせていただきます。

二つ目は、労働と暮らしをめぐる社会的基礎の形成という点であります。すでに日本経済は世界のトップクラスと言われていますけれども、私どもの生活には「豊かさ」と「ゆとり」が実感としてないところ。現在の日本の社会の歪みがあるわけで、これからの時代を勤労者を中心とし、その家族を含めてのよう、人間間的な人間らしい暮らしを追求していくのが、これはまた私どもにとりましても大きな課題でありまして、同時にこれは連合の立場だけの努力だけではなしに、産別の皆さん方の組織強化に向けた積極的な努力も必要とさせていただきます。

三つ目は、組織化への新しい展望が生まれるものと確信をいたしております。ご承知のとおり、日本の組織率は年々低下しております。三〇割を切つて、現在の年々下がっております。それは結局、労働組合が力を失いつつあることを表しております。このままでは、連合が政治的にも政策的にも大きな力を結集し、新しい時代に向かって人間らしい生活を追求するといふことが成功すれば、労働組合に対する新たな見直し、つまり権威が回復するといふように考えられるわけでありま。今まで労働組合を考えたことがない人が労働組合についての新しい認識と理解を示したいたたことによる可能性があると考えるのであります。

89政治決戦特別決議 中村鋭一氏を参議院候補として推薦 川端達夫・山元つとむ衆議院候補も推薦



八九政治決戦の年を迎えて、結成大会では「八九政治決戦の必勝を期す特別決議」が提案されました。この六、七月に発行される参議院議員通常選挙の滋賀選挙区選挙については、民主党の三政党と労働団体の間で共同が話し合われている経過をふまえて、「連合滋賀」としてもの参議院議員選挙に必勝をめざすために、滋賀県出身のフリージャーナリストである「中村鋭一」氏の推薦が提案されました。また、解散総選挙も時間の問題とみられる衆議院議員選挙についても、ゼンセン同盟出身の川端達夫氏を参議院議員と、滋賀地評議長山元つとむ氏を衆議院議員の必勝を期して推薦する決議内容となっています。

この「特別決議」については、全員の異論はなく全会一致で提案が可決されました。



社会党 山元つとむ

社会党と熱気地評を代表して、連合滋賀の結成に際し、熱い期待を込めてお祝い申し上げます。政治に対する強い不信や不満が高まっている中で、連合の発足は大きな意義を持つものであり、みなさんの推薦を力として、一杯の闘いをしたいと決意を新たにしています。

十一年にわたつて滋賀の労働運動の中で育てて頂いた私にとりまして、連合滋賀の結成は待ちに待ったものであり、喜びにたえません。今日の政治を変えるには、自民党によって代わられる政治勢力の結果であり、私もその一員として懸命に闘いたいと思っております。

四つ目は、連帯の効果ということで、一つに大きくまとめた効果は、例えば自主福祉活動につきましても高齢化社会に向けての労働者自身の雇用問題や福祉問題、大きな力を発揮する可能性のあるわけで、私どもと目的を同じくする人間らしい暮らしをめぐる人達の幅広い連帯というものが、そういった中から定着していくと考えられます。

最後の五つ目は、政治的効果ということであります。現在の日本の政治の状況はまさに憂うべきものがございまして、これは野党の分裂という問題が自民党を手助けしているとの関係もございまして、私どもがめざすものは、政権交代が可能な政治勢力の結果であるわけでございまして、このために連合が力を結集し貢献をしていくことでなければならぬと考えております。もちろんこれは協賛メンバーでの積極的な対応も不可欠であることは言までもあります。

以上、五項目がなぐちも連合と連合滋賀がもたらす可能性であると言っておりますが、それを現実にするにはこれからの私どもの一つ一つの運動としてお互いの相互理解と連帯の上に成り立つということがあります。

連合はまさに滋賀における一大勢力になりましたが、私どもは躊躇せず気負わず地道に、そして積極的に運動を取り組んでまいりたいと考えております。連合滋賀の発足は必ずしもその将来が楽観を許される状況にはなく、むしろ厳しい道が待っていると認識しております。明らかな夢とロマンをもった労働運動を進めていくという強い決意をこめまして努力をしてまいります。

